インターネットで24時間365日 電子申請・届出システムが利用できます

県や町役場などの窓口で行っている申請や届出などの手続が家庭や職場などのパソコンからインターネットで出来ます。

問 企画政策課 ☎84-0312

開成町電子申請・届出システム手続一覧

平成23年10月現在

認証	申請書類	担当課
	公文書公開請求	総務課 ☎84-0310
○	自己情報の開示請求	
	町営住宅不在届申請	財務課 ☎84-0322
	町営住宅明渡届申請	
○	印鑑登録証明書交付申請	税務窓口課 ☎84-0313
○	住民票記載事項証明交付申請	
○	住民票の写し交付申請	
○	住民票付記転出届	
○	犬の死亡届出	環境防災課 ☎84-0314
○	犬の登録事項変更	
	し尿処理申込	

※ 「電子申請・届出システム手続一覧」の○印は、公的個人認証が必要なものです。利用には、住民基本台帳カードと電子証明書が必要です。住民基本台帳カードをお持ちでないかたは、総合窓口課で申請、作成してください。

また、住民基本台帳カードをお持ちのかたで電子証明書を取得していないかたはカードを持参のうえ、総合窓口課で電子証明書の取得手続をしてください。（各手続とも手数料は500円です。）

町ホームページ「開成町電子申請届出システム」から

http://www.town.kaisei.kanagawa.jp/

※電子申請・届出システムでの手続は、申請・届出のみのため、証明書の交付や手数料の支払いなどは、役場各担当窓口（土日・祝祭日を除く8時30分～17時15分）へ来ていただく必要があります。

神奈川電子自治体共同運営サービスのホームページから

http://www.e-kanagawa.lg.jp/

※神奈川県および県内30市町村（横浜市、川崎市、横須賀市を除く全市町村）で「神奈川県市町村電子自治体共同運営協議会」を設立し、共同で運営しています。

県内14町村で電算システムの共同利用が始まります

神奈川県内の14町村では、統一した電算システムをデータセンターで一括管理し、それを各町村が共同で利用する方法を平成23年10月から開始することにしました。

●開成町では、10月から共同利用を開始

町の業務を実施するために現在、住民記録など大量の情報をデータ化し、目的にあった電算システムで運用、管理しています。

これまでは、こういった電算システムを市町村ごとに独自に整備していましたが、この方法では、法律などの制度が変わった際に、一斉に全市町村でそれぞれ管理するシステムの内容を変更しなければならず、維持管理経費が膨大なものとなっていました。

このため、開成町を含む県内全町村では平成21年度から検討を重ね、コスト削減効果が期待できることから、全14町村が参加し、電算システムの共同利用を進めることとし、平成23年4月には、具体的な準備、運用を進める組織として、神奈川県町村情報システム共同事業組合を設立しました。

共同利用システムの導入時期は、各町村により異なります。開成町では、住民情報を基盤とする基幹業務の共同システムは、10月24日から利用を開始します。それ以外の内部業務用の会計システムなどは、その後、順次共同利用を進めていきます。

●共同利用により何が変わるの？

皆さんのお手元に届く納付書類などの様式が県内町村で統一されるため変わります。その他は、皆さんに直接影響のあるものはありません。

問 企画政策課 ☎84-0312

子育てワンポイント ⑨⓪

Q 祖父母と同居しています。祖母が甘やかし、私の思うようなしつけができません。

A 子どものしつけに関して、まわりの大人の対応がバラバラだと子どもに迷いが生じます。そうならないように、日ごろから家族で足並みをそろえることが大切です。子育ての中心は両親です。まず父母で子育ての方針について話し合い、共通理解をしてください。その後、両親の考えを祖父母に伝え協力を求めると良いでしょう。子どもは、「お母さんは、自分のことが大好きだからしかってくれている」とわかっています。母親として、自分の子育てに自信を持ちましょう。

親にしかられたとき、逃げ場があるのが同居の良さです。子どもにとって、優しく受け止めてくれる祖父母の存在は大きいものです。祖父母のフォローがあるから、子どもが悪いことしたら安心してしかれると考えましょう。そして、子どもの優しさや思いやりの心は、自分自身が優しくされた経験で育っていくのです。

おばあちゃんと一緒 のびのび子育てルーム

問 開成幼稚園 ☎82-4247
問 のびのび子育てルーム ☎83-4198

生き生きレポート 子どもたちは今 ⑫④

「部活動～合唱～飛躍への自信」

文命中学校教諭 各務義隆

9月。2学期の始業式では部活動の夏の各種大会の表彰が行われました。今年は特に各部のがんばりがよい成果となって表れていたように思います。学校の存在意義の本質が学習であることは当然として、部活動の存在が生徒の学校生活に大きな彩りを与えていることはまぎれもない事実です。秋に行われた文化祭。クラスの取り組みの結晶である合唱コンクール。1年生は初めての体験。3年生にとっては中学生活の行事の集大成としての貴重な経験を得る機会となったことと思います。足が震えて声が出ないかもと不安に思うほど彼らにとっては大舞台です。そんな中だからこそ、皆でやりきったという達成感を味わうことができるのでしょう。また、今では塾や習い事に加え、野球やサッカー、テニス、スイミングなどのスポーツクラブへ参加する生徒もとても増えています。大切なことはそれらの活動を通し、健やかな気持ちと正しい価値観を育んでいくことだと感じます。ともすれば勝敗や、賞の有無にとらわれてしまう場面もありますが、それぞれの活動を通し、一人一人がその後につながる「小さな自信」を身につけられたらと思います。私自身も振り返り思い出すのは、大きな勝利のときよりも、そんな小さなひとときのことのほうが多いです。

／レギュラーにはなれなかった。でもベンチからコーチとして精一杯の声を出し続け、とても褒められ、はにかんでいた彼。／懸垂がずっとできなかった。歯をくいしばって初めて一回できたときの本当にうれしそうな顔と周囲からの拍手喝采。／運動が苦手でいじめられることもあった。それでも1周、2周と走れる距離が増え、半年一年と走り続けた。「ファイト！」まわりからの励ましに初めて仲間を意識できた瞬間。／金賞銀賞よりも大切なものがあるんじゃないか。合唱の本当の良さを伝えることがいちばん意味あることじゃないんだろうか。楽しく明るく歌いあげ、特別賞をもらったときのはじけるような笑顔。／放課後の教室掃除2年近く続けたね。入試の面接でも自信を持ってこたえられ合格。おめでとう。／あの子たちは今どうしているのだろう。あのときの思い出はその後の彼らにどんなきっかけを与えているだろうか。文命のみんな、開成のみんな。君たちは未来の飛躍に向けての小さな自信をつかむために今ここにいる。頑張れ。